



まちを守る消防団

消防団に入ろう

問い合わせ 消防本部 ☎7708



消防団本部副団長
丹下 和昭 さん

私が消防団に入団したのは、自分が現在住んでいる団地が造成されて居住したときに、その団地の消防団員を募集していたことがきっかけでした。最初は何もわからずに活動していましたが、訓練などを通して、少しずつ消防団員としての責任や自覚が持てるようになりました。
消防団というのは非常に大変な仕事ですが、私は、多くの仲間との出会いや、地域の方から感謝されることで、続けることができているのだと思います。

日々活躍している消防団員の「声」



消防団本部女性部長
薄 加代子 さん

私は平成18年に、消防団が初めて女性団員を募集したことをきっかけに入団しました。初めての女性団員ということ、最初は試行錯誤での活動でしたが、広報活動や災害のときの弱者へのサポートなど、次第に女性団員ならではの任務とその重要性が認識され、現在は13人の女性団員が活躍しています。
消防団では、すでに女性団員の存在は不可欠です。これからも、自分ができることを活かし、地域に貢献していきたいと思っています。

「自分たちの地域は自分たちで護る」
消防団は、火災現場で消防士と連携し、被害を最小限に食い止めるなど、住民の安心・安全に多大な貢献をしています。



地域に密着し、その動員力で大規模災害時に活躍する消防団

消防団員は非常勤(特別職)の地方公務員です。しかし、それぞれ自分の職業を持ちながらも、自らの意思で参加するため、ボランティアとしての性格も有しています。

全国では、約88万人の消防団員が地域で活躍しています。大竹市消防団は、1団本部12分団の310名で構成されています。

消防団員は、仕事が休みの日や仕事が終わった後に集まり訓練しています。また、春・秋の火災予防運動週間には、全団員が集結し、合同訓練を実施しています。

昨年の東日本大震災では、予想よりもはるかに大きな津波が発生し、多くの住民が犠牲となりました。その中で、活動していた多数の消防団員も尊い命を失っています。
さらなる防災対策の充実・強化が求められる中、命を張って地域を守る



今こそ女性の力を!

消防団の活動は、地域で発生した火災の鎮圧や各種災害の防衛活動だけではありません。広報活動など幅広い業務を行い、地域での防災の中心的な役割を担っています。さらに災害発生時には、避難してくる高齢者や子どもなどへのサポートも重要な任務です。

このような時には、女性の力が不可欠です。また、日中男性が少ない地域は、特に女性団員の存在が重要になってきます。市の団本部、山間部、島しょ部には女性団員も多く在籍しています。災害活動のほか、火災予防の普及啓発、一人暮らし世帯の防火指導を行うなど、地域の見回り隊として住民の安心・安全に大きく貢献しています。

消防団は、まだまだ多くの人の力を必要としています。あなたも消防団に入って、自分のまちを守ってみませんか?

る消防団に寄せられる期待は、今以上に高まっています。

消防団の動員力が減少しています

消防団は定員330名で構成されていますが、実員は310名で定数を大幅に下回っています。その要因として、地域社会や就業構造などの変化により、団員として参加する若年層の減少や、地域社会への帰属意識の希薄化などにより、地域活動への関心が薄れていることが挙げられます。

そこで、平成23年に団員の定年を60歳まで延長しました。今後、一度は退団された団員への勧誘のほか、若年層への勧誘に最優先に取り組みます。

事業所の皆様のご協力をお願いします

いま、地域を守る担い手の消防団員の確保に苦慮している状況です。団員確保のためには、日中仕事をしているサラリーマンの存在がますます重要となってきます。しかし、仕事中でもいざというときは出勤することになるので、事業所の皆様のご協力が必要です。
市では団員確保に向け、消防団協力事業所表示制度を導入するなど、事業所などに理解と協力を求めています。

地域を守るのはあなたです。

消防団員募集

問い合わせ 消防本部 ☎7708



団員になると、年額報酬や、災害活動・訓練などに出勤したときの手当などが支給されます。

また、公務災害補償や退職報奨金、表彰などの各種制度のほか、活動に必要な被服の貸与もあります。

資格

原則、消防団の区域内に住む18歳以上60歳までの方で、地域の安全と安心を守るために活躍したいと意欲のある方